

- 02 シリーズ駅 大船渡線「狛鼻溪」駅
- 03 COVER STORY 小松代和磨さん（一関一高1年）
- 04 第1特集 明日へのストローク
- 04 第2特集 あなたのために歌う。
- 14 CONGRATULATIONS 百年目の寿 石川艶子さん／加賀さた子さん／伊藤トメさん／熊谷トミ子さん／川上マセヨさん／佐藤トキさん
- 15 COMMENDATION 表彰 広報いちのせきが全国入選
- PICK UP
- 16 闘走伝説 全日本モトクロス選手権 シリーズ第6戦東北大会 まちのトピックス 一関文化センターで被災地支援ソング収録／花泉運動公園で「グラウンドゴルフ大会」／大東町老人福祉センターで「シルバービリヤード大会」／千厩・両磐地域職業訓練センターで「特別教育」／東山・長坂商店街で「あ〜した天気にな〜あれ♪」／室根で「室根町自治会対抗野球大会」／川崎・門崎布佐地区で「天神祭」／藤沢・光栄荘で及川芽依さんが広報ウーマンに
- 20 市民の広場 笑顔でGood（永澤真里）／キッズ写真館／ふれ〜ふれ〜クラブ（菽荘中）／ウチのこ自慢／図書館だより／オススメイベント
- 22 8月の健康コーナー 8月の健康情報／休日当番医／健康塾（稲葉幸子医師）／元気のひみつ（千葉美喜子）
- 24 8月のお知らせ 文化センター催し物案内／博物館だより／市営住宅など入居案内／掲示板／募集／催し／講座／相談／お知らせ
- NEWS HOTLINE
- 30 藤沢徳田地区で「ホテルの里」づくりスタート／千厩で東北初の「まちの駅全国フォーラム」／大東支所を皮きりに10会場で「移動市長室」
- 31 I(愛)な人 いちのせきを受する人 菊地志保さん 心情画家
- 32 わたしの夢 那須野かこさん 門崎小6年

広報いちのせき

**I-Style**

いちのせきスタイル  
2012年8月1日号  
No.165



I-Style(いちのせきスタイル)は、岩手県一関市が発行する広報誌です。中東北の拠点都市を目指して独自のスタイルで前進する誇り高いいちのせき(Ichinoseki)のインプレッション(Impression=感動)、インテリジェンス(Intelligence=知的情報)とインフォメーション(Information=お知らせ)を伝え、古里の魅力を、価値を、エネルギーを発信する情報誌です。8月1日号の印刷経費は1部28円です。本誌は一関市のホームページでもご覧になれます。旬な情報を画面でもお楽しみください。一関市ホームページ <http://www.city.ichinoseki.iwate.jp>

**COVER STORY**

小松代和磨君（一関一高1年）が  
県高校総体男子水泳自由形で2冠

スポーツアカデミー一関に所属する小松代和磨君は、岩手が誇るトップスイマーだ。

6月22、23の両日、盛岡市立総合プールで行われた県高校総体競泳400m自由形(4分06秒92=大会新)と1500m自由形(16分22秒80=県高校新)の2種目を制覇した。

「自信をもって臨んだ」県大会は和磨君にとっては通過点。7月20日から山形市で開かれる東北高校総体を突破して、「北信越かがやき総体」(インターハイ)で入賞することが目標だ。指導する同アカデミーの小山貴史チーフインストラクターは「東北でトップクラスの力がある。経験を積むたび、メンタルも強くなっている」と期待を込める。

9月の岐阜国体出場も視野に入れ、練習に熱が入る。インターハイと国体、2つの大舞台で表彰台を目指す。

(記事は7月19日現在のもの。4~9ページに関連)



岩手県一関市  
Ichinoseki City

東北のほぼ中心、盛岡市と仙台市の中間にある一関市は古くから岩手県南、宮城県北エリアの中核を担ってきました。2005年9月20日に一関市、花泉町、大東町、千厩町、東山町、室根村、川崎村の7市町村が合併。11年9月26日には藤沢町と合併し、「人と人、地域と地域が結び合い、未来輝く いちのせき」を目指して確かな歩みを進めています。

■面積 1,256.25k㎡ ■人口 127,151人 (男61,633人、女65,518人) ■世帯数 45,677戸 ■市花 なのはな ■市木 ぶな ■市鳥 うぐいす (以上2012年7月1日現在)



狛鼻溪駅

Geibikei sta.

「名勝へいざなう駅」

7月の初め、JR大船渡線「狛鼻溪駅」を訪れた。駅の近くには日本百景の一つ名勝「狛鼻溪」がある。狛鼻溪は、砂鉄川の流れが石灰岩を浸食してつくり出した約2kmに及ぶ渓谷で、川岸には高さ100mを超える断崖絶壁がそびえる。休日には県内外から訪れる大勢の観光客でにぎわう。船頭が謡う「狛鼻追分」を聞きながら絶景を眺める舟下りは、もう、言葉にならない。同駅は昭和61年11月1日、旧国鉄が最後に行ったダイヤ改正と同時に開業した。「名勝の玄関口として町中心部に新駅を」と十年以上にわたる地域を挙げた取り組みが実を結んだ

「請願駅」である。国鉄は翌62年4月に民営化してJRになった。長坂交通安全母の会下町分会長の石川薫さん(49)が今回の案内人。同会は長年にわたり同駅の清掃活動を行っている。「会員59人が週1回、2、3人ずつ交代で清掃しています。(観光客が多いので)以前は、ホームや線路にまでごみが捨ててあって大変でした」と石川さん。駅から船着場までは5分ほど。地域住民の生活の足として、名勝へいざなう駅として、多くの人々が利用する狛鼻溪駅。この駅を出ると上り列車は陸中松川駅を目指す。



- ④柴宿駅を出た上り列車の車窓から望む狛鼻溪の船着場
- ⑤駅前広場の藤棚も見所の一つ。6月には薄紫色の藤の花が満開に



⑥狛鼻溪駅のホームの長さは、3両編成の列車が停車しても対応できる75m  
⑦駅を出て、すぐ目に付くのが観光案内板。多くの観光客が立ち止まる

案内人

石川薫さん  
長坂交通安全母の会下町分会長



町の中心にあって便利です。平日は、多くの高校生が利用しています。一方、大勢の観光客が利用する地域の顔。常にきれいにしておきたいですね。